

令和4年度 諫早市在宅医療・ 介護連携支援センター運営事業 活動報告書

一般社団法人 諫早医師会
諫早市在宅医療・介護連携支援センター
(かけはし いさはや)

事業の目的

要介護者等が、住み慣れた地域で在宅生活の継続に必要な医療と介護サービスを円滑に提供できる体制を構築するため、専門職から在宅医療に関する相談に対して支援を行います。

また必要な情報を発信するなど、医療と介護事業者の連携をサポートすることを目的としています。

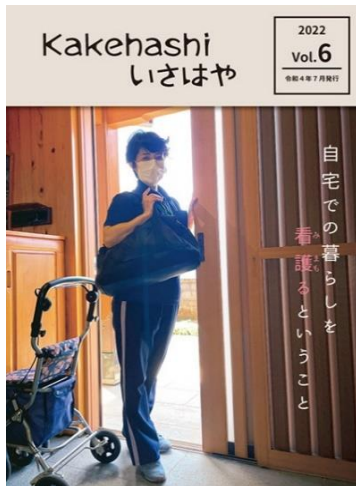
諫早市在宅医療・介護連携支援センター
TEL : 46-3166 FAX : 46-3167



令和4年度 主な取り組み

「Kakehashi いさはや」情報紙の発行（継続）（資料1）

情報紙発行3年目となり、関係機関に対し「かけはしいさはや」の役割や活動内容、また専門職の皆さんの視点から、相互に理解し合い、医療と介護の連携の一助となるよう情報紙を発行しています。



VOL.6

自宅での暮らしを^{みまも}看護するということ

【特集】「医療」と「生活の場」をつなぐ～訪問看護～

- ・在宅医療・介護関係者研修会を開催しました
- ・Information 研修会のお知らせ



VOL.7

自宅での暮らしを^{みまも}看護するということ

【特集】最後まで利用者と家族に寄り添う～訪問看護～

- ・在宅医療・介護関係者研修会を開催しました
- ・Information 研修会・講演会のお知らせ



VOL.8

自宅で看取るということ

【特集】自宅で看取られた方のインタビュー

- ・在宅医療・介護関係者研修会を開催しました
- ・在宅医療と介護の市民講演会を開催しました

令和4年度 主な取り組み

研修会は医療・介護関係者からの希望に沿ったテーマで開催しました

「在宅医療・介護関係者」研修会は、諫早医師会、諫早市歯科医師会、諫早市薬剤師会及び諫早市在宅ケアサークル様のご協力を頂き、6回の研修会をZoomにて開催しました。

研修会のテーマは、令和3年4月に実施した「在宅医療・介護連携等に関するアンケート調査」の中で、三師会等の先生方に講演してほしい研修テーマをお尋ねし、そのテーマに沿った研修会となりました。

また、主任ケアマネジャーの方には、「長崎県主任介護支援専門員更新研修受講要件対象研修」として、修了証明書を25名に交付しています。

取り組み内容

第1回（共催）

「組織から加害者と被害者を出さないためのハラスメント研修」
講師：福岡博孝先生
弁護士法人ふくむく法律事務所

令和4年4月18日(月) 19:30～21:00
(Web接続は19:15～)

【参加費】 無料
【申込方法】 オンライン参加 (Zoom)

第2回（共催）

みんなで考えよう！在宅で看取り～葬儀のワークスをもとに～

6/27(月) 19:30～21:00
(Web接続は19:15～)

講師：松尾雅夫先生
長崎県血液リウマチ科 松尾雅夫先生

【参加費】 無料
【申込方法】 オンライン参加 (Zoom)

第3回（主催）

『認知症患者の服薬支援』

講師：池田 理恵先生
こばく堂薬局 管理薬剤師

令和4年度 第3回 在宅医療・介護関係者研修会

【参加費】 無料
【申込方法】 オンライン参加 (Zoom)

第4回（主催）

お口の気づきから連携を考える

講師：増山 隆一 先生
増山 歯科 院長

令和4年度 第4回 在宅医療・介護関係者研修会

【参加費】 無料
【申込方法】 オンライン参加 (Zoom)

第5回（共催）

ACPとはじめ
～リビビング・ウィルから始めるACP～

講師：菊岡 寛先生
公益社団法人日本看護協会 理事 菊岡 寛先生

12/17(土) 14:30～16:30
諫早市社会福祉会 2階 第2研修室

【参加費】 無料
【申込方法】 オンライン参加 (Zoom)

第6回（主催）

『神経難病患者の在宅医療について』

講師：権藤 雄一郎 先生
医療法人 さんどう内科・脳神経内科クリニック院長

令和4年度 第6回 在宅医療・介護関係者研修会

【参加費】 無料
【申込方法】 オンライン参加 (Zoom)

成果と課題

コロナ禍の中、前年度に引き続き、Zoomによるオンライン研修を中心に開催した。諫早市在宅ケアサークルと連携・協力し、グループワークを取り入れた研修会を行い、対面で意見を交わすことができ、参加者から好評を得ることができた。

また、前年度からの継続したテーマによる研修会では、さらに理解を深めることができた。今後もハイブリッド形式を中心に、対面研修も取り入れた、顔の見える関係づくりの一助となる研修会を開催したい。また、研修テーマについても多職種のスキルアップだけでなく、課題解決につながるテーマに取り組みたい。

在宅医療に関する専門相談や退院時の相談支援に必要な情報収集のため、医療機関や介護事業所、高齢者施設にアンケート調査を実施し、ホームページに掲載している情報を更新しています。 ホームページ掲載

取り組み内容

(1) 情報の更新

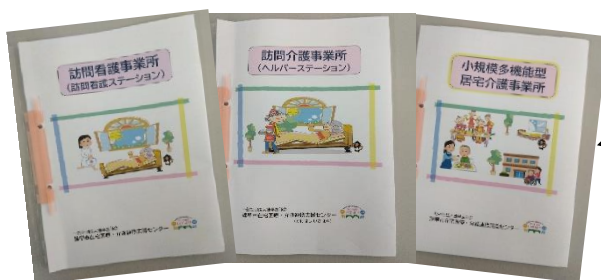
- ① 医療機関の情報更新は、三師会の協力を得て年1回更新を行った。(資料2)
- ② 介護事業所情報は、長崎県長寿社会課のデータを基に半年に1回更新した。(資料3)
- ③ 高齢者施設情報は、長崎県長寿社会課のデータを基に半年に1回更新した。(資料4)
- ④ 高齢者施設(軽費老人ホーム、有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅、認知症対応型共同生活介護(GH))の事業所に対し医療処置があっても入居可能なもの、看取り対応、費用、施設PRなどアンケート調査を実施して情報を更新した。

(2) 詳細情報の公開

訪問看護事業所・訪問介護事業所・小規模多機能型居宅介護事業所について、各事業所の詳細を調査し、新たな情報を掲載した。(資料5)

施設名	件数	施設名	件数
在宅医療機関	59件	ショートステイ(短期療養)	14件
訪問歯科医院	41件	訪問看護ステーション	19件
訪問薬局	53件	訪問入浴	1件
通所リハビリテーション	21件	小規模多機能型居宅介護	8件
訪問リハビリテーション	8件	訪問介護事業所	41件
デイサービス事業所	45件	福祉用具販売	10件
地域密着型デイサービス事業所	36件	福祉用具レンタル	11件
認知症対応型デイサービス事業所	6件	巡回訪問	1件
ショートステイ(短期生活)	17件	居宅介護支援事業所	52件

施設名	件数	施設名	件数
介護療養型医療施設	3件	○有料老人ホーム	17件
介護老人保健施設	4件	○サービス付き高齢者向け住宅	16件
介護老人福祉施設	8件	○軽費老人ホーム	4件
地域密着型介護老人福祉施設	8件	○認知症対応型共同生活介護	23件
介護医療院	3件	※：○は費用や通院送迎など詳細を表示	



医療連携室、介護支援専門員が知りたい情報を中心に、詳細をまとめています

成果と課題

アンケート情報の更新に努め、施設や事業所等の情報提供や相談対応に活用した。医療・介護資源情報更新に合わせマップ化し、周辺状況も併せて掲載した。インフォーマルな社会資源など、各地域包括支援センターと連携し、情報の把握に努め、さらに活用できるようホームページへの掲載を検討する。

今後も医療・介護関係者に必要な情報の発信を定期的実施する。

居宅介護支援事業所や地域包括支援センターなどの医療・介護関係者、関係機関から医療機関情報や在宅療養等に関する相談に対して、電話や窓口での情報提供や助言に努めました。

また、要介護者等の退院時に際し、医療関係者や介護サービス事業者その他の関係者の相談に応じ、関係機関との連携を図り退院支援に努めました。(参考1)

相談内容		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
相談区分	合計	0	0	1	0	0	1	2	3	2	1	4	1	15
在宅療養 支援	①医療等に関する相談	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2	0	4
	②介護等に関する相談	0	0	0	0	0	0	2	1	0	1	1	1	6
	③短期入院・入所に関する相談	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	④看取りに関する相談	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
転・退院 支援	⑤医療情報に関する相談	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2
	⑥介護情報に関する相談	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	2
その他	⑦苦情・クレーム	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	⑧その他	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1

相談者		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
相談者区分	合計	1	0	1	0	0	1	2	3	2	1	4	1	15
ケアマネ	居宅介護支援事業所	0	0	0	0	0	0	1	0	2	1	2	0	6
医療 関係者	病院、医院	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2
	診療所（歯科含む）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	薬局	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	訪問看護ステーション	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
事業所	在宅サービス事業所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	施設サービス事業所	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
関係機関等	地域包括支援センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	行政機関	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市民	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	1	1	4
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

取り組み内容

地域の医療・介護関係者等から、在宅医療、施設情報に関する相談を受けた。

訪問診療をしてくれる在宅医や医療処置の必要な利用者が入居できる施設情報、透析時通院送迎ができる施設や入所可能な施設情報などの相談に対応した。

市民からの相談も4件あったが、必要な情報を提供した。また関係機関へ紹介するなど対応した。

成果と課題

相談件数は15件。

介護タクシーについての相談から、諫早市内の介護タクシー・福祉タクシーの調査を行い次年度にホームページに公開予定である。

透析中の方に関する施設情報については、毎年相談がある。現在、諫早市内の情報のみ収集しているが、対応できる施設が少ないため市外の情報も今後必要となることも予想され、市外の情報収集を検討する。

第1回 テーマ 「組織から被害者と加害者をださないためのハラスメント研修」

開催日 令和4年4月18日（木）19:30～21:00
 講師 弁護士法人ふくざき法律事務所
 弁護士 福崎 博孝先生
 会場 オンライン開催
 参加者 148名



【講演内容】

加害者にも被害者にもならないためには、何がハラスメントなのかを正しく知ることが大事で、誰もが、正しい知識を持つことで、普段から意識して行動でき、働きやすい環境へ繋がると学んだ。指導者は言葉と心を磨くこと、冷静沈着になど求められていることは多いが、普段からのコミュニケーションが大事であることを感じた。

【参加者からのご意見】

- 柔道の指導方法を例に、「言葉を磨いて、心も磨かないと誰もついていけない」という言葉が印象的でした。上司だけでなく、職員も上司や利用者へ上手く伝えることが大事で、そういう気持ちを持ち続けることが働きやすい職場に繋がるのかなと思いました。
- 知識と知性があれば、ハラスメントは起きないという言葉に、衝撃を受けました。
- 今後パワハラか否かをみる際には、パワハラ6つの類型に当てはめようと思いました。

	職 種	人数
1	医師	4
2	歯科医師	3
3	薬剤師	5
4	看護師	63
5	ケアマネジャー	28
6	保健師	2
7	MSW	1
8	栄養士	0
9	社会福祉士	2
10	理学療法士	5
11	言語聴覚士	1
12	作業療法士	4
13	歯科衛生士	7
14	介護職(介護福祉士)	3
15	生活相談員	6
16	ヘルパー	3
17	管理者	5
18	事務職	6
	合 計	148

第2回 テーマ 「みんなで考えよう！在宅での看取り～非がんのケースをもとに～」

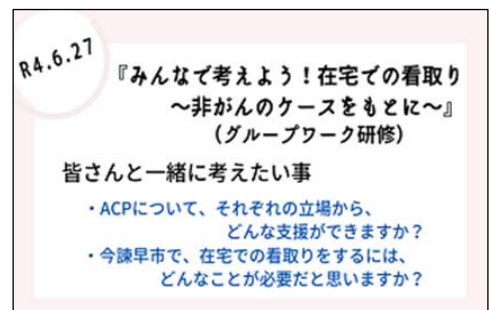
開催日 令和4年6月27日（月）19:30～21:00
 会場 オンライン開催(ブレイクアウトルームを使用したグループワーク)
 参加者 42名

【講演内容】

1グループ6名ほどのグループを作り、グループワークを行った。それぞれの専門職の立場から、ACPの取組や意見を交わし合った結果、共通して、「ご本人・ご家族の健康状態・意向は日々変わるため、その都度確認をしていくことが大切ではないだろうか」「話し合いは早め早めがいいのか？」「タイミングが難しい」という意見が出ていた。

【参加者からのご意見】

- 自事業所以外の職員と症例について話す機会が減った中、他事業所の色々な職種の方と話せたことで、視点が広がったように感じます。今回、様々な職種の方の考え方が聞けて、勉強になりました。
- 皆さんのACPの考え方、とても参考になりました。職種によって、捉え方が様々だからこそ患者さんにとってより良い方向へ導かれると思いました。



	職 種	人数
1	医師	3
2	歯科医師	1
3	薬剤師	5
4	看護師	15
5	ケアマネジャー	9
6	保健師	3
7	MSW	1
8	栄養士	0
9	社会福祉士	1
10	理学療法士	3
11	言語聴覚士	0
12	作業療法士	0
13	歯科衛生士	0
14	介護職(介護福祉士)	1
	合 計	42

第3回 テーマ 「認知症患者の服薬支援」

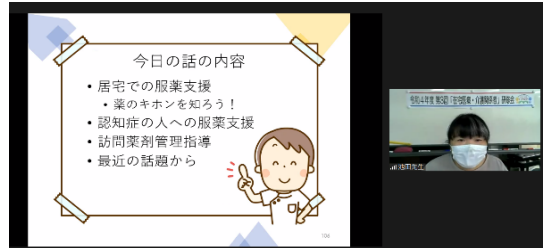
開催日 令和4年9月16日（金）19:00～20:00
 講師 こはく堂薬局 管理薬剤師 池田 理恵先生
 会場 オンライン開催
 参加者 92名

【講演内容】

認知症の方の対応における2つの原則を理解し、服薬に関する情報を多職種で共有し、正しい薬の知識を持って、課題に対して介入策と一緒に考えることも大切という話であった。服薬に関する認知症ならではの難しさを感じている専門職が多い中、情報共有ツールとしてお薬手帳の活用も紹介され、すぐに日々の業務に取り入れることができる内容が多くあった。

【参加者からのご意見】

- ・認知症の方の薬剤管理には、多職種や複数のサービスの連携をとりながら、情報共有や様々な視点からの工夫の大切さを認識できました。
- ・認知症の方で、処方の見直しを行えば薬が飲みやすくなるのではと思うことが何度かありました。しかし、在宅で経過をみながら変更していくことは難しいと思ったことや、このような相談をしていいものだろうかと考え、実際に相談には至りませんでした。今回の成功例の紹介から、今後は多職種の皆さんにまずは相談出来たらと思いました。



	職 種	人数
1	医師	0
2	歯科医師	2
3	薬剤師	15
4	看護師	17
5	ケアマネジャー	30
6	保健師	0
7	MSW	1
8	栄養士	0
9	社会福祉士	0
10	理学療法士	2
11	言語聴覚士	0
12	作業療法士	1
13	歯科衛生士	3
14	介護職(介護福祉士)	2
15	生活相談員	1
16	ヘルパー	14
17	管理者	1
18	事務職	1
19	その他	2
	合 計	92

第4回 テーマ 「お口の気づきから連携を考える」

開催日 令和4年11月18日（金）19:00～20:00
 講師 増山歯科医院 院長 増山 隆一先生
 会場 オンライン開催
 参加者 62名

【講演内容】

ある高齢男性が義歯を調整し食べられるようになった、そのことだけで回復が著しく、スムーズに歩けるようになったことから、栄養として体の中にきちんと入っていくように、口から食べることがいかに大事かということを改めて理解できた。支援する側も意識を高め、チェックリストの活用や歯科医との連携をしっかりと取りながら、利用者の『食べる』を支えていきたい。

【参加者からのご意見】

- ・オーラルフレイル予防にも行っているうがい、いつもより長く行うだけで負担なく続けられる方法を教えていただき、利用者や高齢者に提案が行いやすくなりました。わかりやすい講義で口腔衛生の大切さを改めて感じたところです。
- ・お口のトラブルが健康や体調と関わりが深いことを再認識できたのでチェックシートを活用して高齢者と関わっていきたいと思いました。



	職 種	人数
1	医師	4
2	歯科医師	4
3	薬剤師	6
4	看護師	13
5	ケアマネジャー	16
6	保健師	1
7	MSW	0
8	栄養士	0
9	社会福祉士	1
10	理学療法士	0
11	言語聴覚士	0
12	作業療法士	0
13	歯科衛生士	6
14	介護職(介護福祉士)	8
15	生活相談員	0
16	ヘルパー	1
17	管理者	1
18	事務職	1
	合 計	62

第5回

テーマ 「ACPことはじめ～リビング・ウィルから始めるACP～」

開催日 令和4年12月17日（土）14:30～16:30

会場 社会福祉会館2階 多目的ホール

講師 満岡内科クリニック 院長 満岡 聡先生

参加者 40名

【講演内容】

リビング・ウィルについて理解が深められ、ACPの定義を整理しながら、改めてACPのタイミング等について学ぶことができた。グループワークの前に、参加者には“私の希望表明書”を記入し、当事者役の希望表明書をもとにその方にとっての最善のケアをどうしたらよいか話し合った。『それぞれの職種で出来ることは何か』という視点で、多職種の様々な意見が、活発に交わされていた。

【参加者からのご意見】

- ・家族だけでなく、専門職も交えた対話が必要だということを経験できてよかったです。
- ・グループワークで実際にやってみることで、気持ちの変化を実感することができ、また、多職種の意見も大事だと感じました。今後普及していくためには、実践する人たちの正しい理解が重要であると思います。
- ・なかなか整理がつかず、進め方が難しい領域だと思えます。そのため、事例を通じてお互いの支援の強みを共有することが大事だと思えます。



	職 種	人数
1	医師	4
2	歯科医師	2
3	薬剤師	1
4	看護師	7
5	ケアマネジャー	8
6	保健師	1
7	MSW	3
8	栄養士	0
9	社会福祉士	1
10	理学療法士	2
11	言語聴覚士	0
12	作業療法士	0
13	歯科衛生士	1
14	介護職(介護福祉士)	0
15	生活相談員	1
16	ヘルパー	4
17	管理者	0
18	事務職	4
19	その他	1
	合 計	40

第6回

テーマ 「神経難病患者の在宅医療について」

開催日 令和5年3月15日（水）19:00～20:00

会場 オンライン開催

講師 ごんどう内科・脳神経内科クリニック 院長 権藤 雄一郎先生

参加者 75名

【講演内容】

・神経難病患者への告知は、患者・家族の理解度やニーズを確認しながら、継続的に繰り返し行うことが必要である。早期から医療・介護者の支援体制を構築することが重要であること、また、病状が進行していく中で、胃ろうや人工呼吸器等の選択を迫られる意思決定場面でも、医療・介護者も葛藤する場面でもありますが、患者・家族の”後悔しない生き方”に向けた支援を、多職種で考えていかなければならない。

【参加者からの感想】

- ・神経症状の患者さんの苦痛・不安の理解、寄り添うこと、病気への説明の繰り返しは重要であること、勉強になりました。
- ・難病患者様やご家族が病気の告知を受けた時の思いや生活への不安に寄り添い「ご家族・ご本人が後悔しない人生」を、そのためにも病気の経過を理解し在宅でも関わるチームと連携が大切だと再認識しました。



	職 種	人数
1	医師	3
2	歯科医師	0
3	薬剤師	8
4	看護師	18
5	ケアマネジャー	32
6	保健師	1
7	MSW	1
8	栄養士	0
9	社会福祉士	0
10	理学療法士	2
11	言語聴覚士	0
12	作業療法士	0
13	歯科衛生士	0
14	介護職(介護福祉士)	1
15	生活相談員	0
16	ヘルパー	4
17	管理者	1
18	事務職	4
19	その他	1
	合 計	75

キ 地域住民への普及啓発

① 医療と介護に関する市民講演会の開催（資料7）

医療や介護が必要になっても、住み慣れた地域で安心して生活ができる「在宅医療」について理解を深めてもらうことを目的に、三師会の先生方及び市地域包括ケア推進課と連携し、市民講演会を開催しました。 [ホームページ掲載](#)

【テーマ】 在宅医療ってなあに？～あなたを支える医療と介護～

第1回 市民講演会

【日 時】 令和5年2月18日(土) 午後2時から4時まで

【会 場】 いいもりコミュニティ会館

【参加者】 62名

【講 師】 地域包括ケア推進課 新野純子様・濱うらら様

「ご存知ですか 介護保険～諫早市の地域包括ケアの取り組みについて」
すぎやま内科 杉山啓一先生

「在宅医療ひそひそ話～こんなことしています、訪問診療～」
増山歯科医院 増山隆一先生

「お口から食べるよろこびを」
くやま薬局 城島幸佑先生

「在宅医療での薬剤師の役割」

講演内容

市地域包括ケア推進課より、脳トレの実技を交えながら、介護予防、日常生活支援総合事業、ACPの啓発活動など地域包括ケアの取組について、杉山先生からは在宅医療とはより良く生きるため、生活の質を高めるための医療であり、多職種が連携して行うチーム医療であると、講演された。

増山先生からは、訪問歯科診療の実際や口から食べることは非常に大切であるということ、城島先生からは、残薬の整理や薬剤変更の提案など、在宅医療における薬剤師の役割について講演された。

【講演会についてのご意見】

- ・両親ともに80代で2人暮らし。子供だけで抱え込むのではなく、積極的にプロの方に相談していけると思うと、勇気と希望が持てました。
- ・介護について考えるきっかけになりました。家族で話し合おうと思います。
- ・いつまでも住み慣れた地域で暮らせるように、医療・介護・地域の連携が大切だと思います。
- ・あまり自分が不自由になった時のこととか考えたくないですが、夫と子ども達と話し合っておこうと思いました。
- ・現在、高齢の義母を色々な方々にお世話になり、介護しています。次は自分の番だと改めて確信しました。本日は知らないこともあり、勉強させてもらってありがとうございました。



キ 地域住民への普及啓発

① 医療と介護に関する市民講演会の開催（資料7）

第2回 市民講演会

令和4年度 在宅医療と介護の市民講演会
在宅医療ってなあに？
～あなたを支える医療と介護～
3月25日(土)
14:00～16:00
(受付13:00～)
会場：長田みのり会館

講演会プログラム
「ご存知ですか 介護保険
～高齢者の地域包括ケアの取り組みについて～」
地域包括ケア推進課 斎藤 真子
「施設での在宅医療の現状」
藤山循環器内科医院 院長 藤山 友樹
「口は喉のほとと～お口は健康の入り口です！～」
ヒカリデンタルクリニック 院長 原 美和子
「薬局薬剤師はこんなこともできる」
むつごろう薬局 薬剤師 高崎 正磁

**要申込み
定員100名**

【申し込み方法】
申込書のダウンロード、又は事務局のHPから申し込みをお願いします。
申込書ダウンロード：http://www.kakishashi-igahaya.com
電話：46-3166 FAX:46-3167
お問い合わせ先：長田みのり会館
電話：46-3166 FAX:46-3167
URL：https://kakishashi-igahaya.com

【日 時】 令和5年3月25日(土) 午後2時から4時まで

【会 場】 長田みのり会館

【参加者】 68名

【講 師】 地域包括ケア推進課 新野純子様

「ご存知ですか 介護保険～諫早市の地域包括ケアの取り組みについて」

藤山循環器内科医院 藤山友樹先生

「当院での在宅医療の現状」

ヒカリデンタルクリニック 原美和子先生

「口は禍のもと!?～お口は健康の入り口です～」

むつごろう薬局 高崎正磁先生

「薬局薬剤師はこんなこともできる」

講演内容

藤山先生からは、自院において訪問診療を開始されるに至った経緯や症例を交えて、ご家族と話し合い共有していくことが大切であると講演いただいた。

原先生からは、お口環境が様々な病気との関連やオーラルフレイルの原因、定期受診の大切さをなどについての講演を、高崎先生からは、在宅訪問で薬局薬剤師のできることにについて、薬剤の保管状況の確認から残薬の整理、一包化などを提案されている現状について講演いただいた。

【講演会についてのご意見】

- ・最後は入院してお任せではなく、専門の先生方のサービス・医療を受けながら家族の支えがあり、安心して穏やかにその時まで生きていけたらいいなと思いました。
 - ・家族でも話し合っておくことが大事ですね。
 - ・2時間以上はちょっときついので、もっと短時間でしてもらいたい。
 - ・人生最後まで、おいしく笑って過ごしたい。周りに迷惑かけてまでは長生きしたくない。
- 調剤薬局のイメージが変わった。



成果と課題

- ・新型コロナウイルス感染症対策を行い開催した。飯盛地域及び長田地区自治会長会議で説明し、開催チラシの全戸配付を行い、その他の団体にも依頼し、集客に努めた。
- ・各回とも60名以上の参加があり、アンケートには率直なご意見をいただいた。ご指摘いただいた点については、次年度の改善点として検討する。

キ 地域住民への普及啓発

② 医療と介護のお気軽座談会の開催（資料8）

概ね10名以上の地域の団体やグループの市民を対象に、在宅医療や介護への理解を深めてもらうことを目的に、「医療と介護のお気軽座談会」を開催しました。

医療と介護のお気軽座談会

当センターでは、市民の方を対象に、在宅医療・介護への理解を深めることを目的に「医療と介護のお気軽座談会」を開催しています。

在宅医療ってなあに？ **介護保険サービスを利用する**

かかりつけ医で安心を！ **その時に備えて (ACP=アドバンス・ケア・プランニング)**

対象
市内在住の市民で
概ね10名以上の
地域の団体やグループ

費用
無料です

会場
申し込まれた方が
ご希望の会場
駐車場はご準備ください

時間
原則として平日
(月曜日から金曜日)
60分程度

その他
終了後は
アンケートのご協力を
お願いします

お問い合わせ 諫早市在宅医療・介護連携支援センター【担当：野口・川端】
電話 0957-46-3166 FAX 0957-46-3167
URL <https://kakehashi-isahaya.com/>



取り組み内容

【令和4年度開催状況】

開催日	6月20日
会場	喜々津団地公民館
団体等名称	多寿喜会
参加者	22人

【座談会についてのご意見】

- 常日頃から考えておかないと答えが出ない。相談・話し合える状況を作るようにしたい。
- おおまかな知識はありますが、今日具体的なことを聞いて大変参考になりました。
- まだ元気に過ごしているので、先のことかと思っていたのですが、考えておくことが必要だと思いました。
- 介護の具体的なサービスについて、詳しい情報が欲しいです。

成果と課題

- 参加者と気軽に質問や話し合いができる和やかな場づくりができた。
- 座談会開催にあたり、代表者と会場の事前確認を行い、スムーズな運営につながった。
- 多くの市民に普及啓発するためにも、自治会長、民生委員、地域で行われているサロンなど、各団体等へ「お気軽座談会」の周知をしていく必要がある。
※これまでの市民講演会やお気軽座談会のアンケートやご意見等を取り纏めた。(参考2)

その他の業務

① 研修会への参加

職員の資質向上のため、参加可能な研修会（WEB研修含む）に参加し研鑽に努めました。

取り組み内容

日時	主催	テーマ
10月17日	諫早市在宅ケアサークル	「食べるを考える～子どもの摂食嚥下、発達障害の評価のポイント～」
11月14日	勇美記念財団	「わが家・わが町の地域包括ケア～利用者・患者の側からみると」
11月24日	諫早総合病院	「緩和ケアで使用する薬剤について～新しいお薬を中心に～」
1月12日	出島病院	「外来看護師における在宅支援」
1月26日	出島病院	「在宅医療」
2月28日	長崎市まちなかラウンジ	在宅医療各種課題検討会
3月2日	出島病院	「緩和ケアにおける多職種カンファレンス」
3月16日	長崎市まちなかラウンジ	多職種研修会

その他の業務

① 研修会への参加

研修会：令和4年度 長崎県地域包括ケアシステム構築加速化支援事業 県内情報交換会
(在宅医療・介護連携推進に関する情報交換会)

主催：長崎県福祉保健部長寿社会課

日時：令和4年12月15日(木)

講師：埼玉県立大学大学院研究開発センター 川越雅弘教授

研修内容：講義「事業マネジメントの基本的な考え方と進め方」

情報交換「在宅医療・介護連携の推進に向けた現在の取り組みと課題について」

演習「第8期介護保険事業計画における4つの場面別に見た在宅医療・介護連携推進事業の取組改善を考える」

成果と課題

- ・各市町の事業について進捗状況、抱えている課題を知ることができ、意見交換ができた。
- ・どの市町も評価指標をどのように設定するか、課題としてあげていた。
- ・「日常の療養支援」「急変時の対応」「入退院支援」「看取り」の4つの場面における、諫早市が“目指す姿”を、行政・医師会等の関係機関が共有し、推進事業の展開を共に検討する必要がある。

② 研修等受け入れ

取り組み内容

県立看護学校専門課程3年生への講義(令和4年10月18日)

テーマ：「在宅療養者の視点で医療介護連携を考える」

県立看護学校(校長 満岡 渉)より、同校専門課程3年生の統合実習の講師依頼があり、「在宅医療・介護連携支援センターの業務内容及び在宅医療・介護関係者と連携するために」をテーマに講義を行った。

なお、統合実習は地域包括ケアシステムも学習課題であるため、市地域包括ケア推進課、中央部包括支援センターからも講師として協力している。

成果と課題

在宅医療・介護連携推進事業の一つである当センターの役割などを保健師が説明。

当センターが実際に受けた相談内容や医療・介護関係者向けに行っている研修会、情報誌の発行など、当センターにおける医療と介護の連携に向けた取り組みの紹介を行った。

また、市民向けの講演会や座談会については、在宅医療の普及だけでなく、ACPIについても世代に関係なく、前向きなものとして考えてもらえるような内容も取り入れていることを説明した。

職種は違っても、同じ目的・目標を持った多職種との連携が取れるよう、病院等の看護師として、在宅医療・介護関係者と共に在宅療養者を支えるという意識、視点を持てるような内容とした。

